

都道府県・ 指定都市番号	都道府県・ 指定都市名	研究課題番号・校種名	3 (4) 小学校
		領域名	E S D
研究課題	学校全体で取り組む課題 (4) E S Dを学校全体で体系的に推進するための教育課程の編成，指導方法等の工夫改善に関する実践研究		
ふりがな 学校名 (児童・生徒数)	きょうとしりつ ど どしょうがっこう 京都市立百々小学校 (645人)		
所在地 (電話番号)	TEL 075-593-3250		
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=110204		
研究のキーワード	主体的，多角的，つながり，思考力，E S Dカレンダー		
研究結果のポイント	○E S Dの視点で社会科の授業を組み立てたことによる学習の広がり・深まり ○学校教育活動とE S Dとの関連		

1 研究主題等

(1) 研究主題

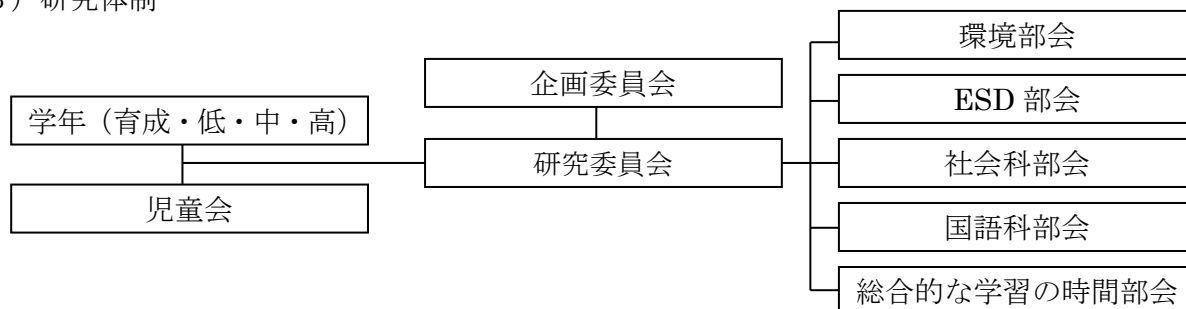
学ぶこと大好き！
 —自ら考え，ともに高め合い，よりよい社会をつくろうとする子どもの育成を目指して—

(2) 研究主題設定の理由

本校の校区には，大石神社・山科神社，多くの田畑があり，多くの生き物が共生する自然豊かな地域である。また，校内には芝生・ビオトープと自然に触れる場所があふれている。さらには，清水焼団地，仏具・扇子団地もあり，古くから伝統産業のさかんな地域でもある。

このような環境で，ESD の視点を組み込んだ体験型学習や，教科横断的な学習過程を通して伝統産業や環境問題について学び，地域の素晴らしさに気付かせたい。また，その気付きが身の回りの環境や伝統文化に対しての興味・関心や地域への誇りや愛着，環境に対する豊かな感性となり，自分たちも守り続けていかなければならないという意識につながるようにしたい。多角的な視点で考えていくべき環境問題に対しても，まずは身近なところに自ら進んで目を向けることで，自然の素晴らしさに感動するとともに，課題を見出し，自分とつながりのある周りの人達と共に解決策を考えようとする態度が養われることと考える。さらに的確な言葉を選んで自分の考えを発信することにより，地域の人・もの・こと・社会・自然との繋がり・関わりに関心を高め，考える力を養い，自分の考えに責任をもって行動する子供を育てていきたい。

(3) 研究体制



(4) 1年目の主な取組

平成 29 年 度	4月～5月
	6月～2月
	2月～3月

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

- 今年度の校内研究方針の共通理解
 - ・校内研究方針確認・講演（ESDの考え方について）
 - ・全計画の策定
 - ・総合的な学習・生活科・社会科・理科等のカリキュラムの策定
 - ・アンケートの実施（教職員の意識調査1回目，児童1回目）
- 校内研究授業ESDの視点を取り入れ，授業改善を図る。
 - ・社会科・国語科を中心とした校内研究を進め，それぞれの教科のねらいとESDのねらいの2つの視点で授業を評価。
 - ・さらに総合的な学習や生活科においてもESDの視点を大事にして授業を進める。
- ESDの視点を大切にした環境整備
 - ・校内の環境整備を図る。地域の方々と共に芝生やビオトープ整備を行う。
 - ・校区の自然を探索する。写真などで残しておく。
 - ・図書教材の充実
 - ・児童会活動の充実
- アンケートの実施
 - ・アンケートの実施（児童2回目）
- 一年次のまとめと次年度の方向性確認
 - ・アンケートの実施（教職員の意識調査2回目，児童3回目）

(2) 具体的な研究活動

- 今年度の校内研究方針の共通理解
 - ・ESDの視点を組み込んだ体験型学習や，主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善について共通理解を深めた。
- 校内研究授業ESDの視点を取り入れ，授業改善を図る。
 - ・国語科・社会科に主体的・対話的で深い学びの考え方を取り入れて授業改善を図るとともに，見いだした授業改善の視点を他の教科にも生かすようにする。
- ESDの視点を大切にした環境整備
 - ・多面的・総合的・批判的に考える力，人間尊重の精神や多様性の尊重の精神，コミュニケーション力，地域や伝統産業，自然と自分とのつながりを大事にし，それらに積極的に働きかける力等を高める。
- アンケートの実施
 - ・合計3回のアンケートにより，児童の意識の変遷を分析し，次の活動へ繋げる。
- 一年次のまとめと次年度の方向性確認
 - ・今年度の成果と課題をもとに，ESDの視点を組み込んだ体験型学習や，主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善について共通理解を深める。

(3) PDCAサイクルへの取組について

これまでのESDアンケート（2回分）の回答は以下ようになった。

	あてはまる (%)				少し、あてはまる (%)				あまり、あてはまらない (%)				あてはまらない (%)			
	5年		6年		5年		6年		5年		6年		5年		6年	
	3月	7月	3月	7月	3月	7月	3月	7月	3月	7月	3月	7月	3月	7月	3月	7月
学校が楽しい	52.9	65.5	61.7	69.1	35.7	26.9	27.8	22.7	10.0	7.6	9.0	8.2	1.4	0.0	1.5	0.0
みんなで何かするのは楽しい	71.4	75.9	63.4	81.8	25.7	22.3	29.9	16.4	2.9	1.8	6.0	1.8	0.0	0.0	0.7	0.0
授業に主体的にくすんで取り組んでいる	45.7	47.8	34.3	57.1	37.1	40.9	41.1	31.3	12.9	10.4	20.9	10.7	4.3	0.9	3.7	0.9
授業がよくわかる	55.8	68.7	56.0	71.0	37.1	26.1	25.4	23.6	7.1	2.6	17.9	2.7	0.0	2.6	0.7	2.7
他の人の意見を大事にして自分の意見を考えている	38.6	41.9	32.1	47.3	47.1	47.0	50.0	40.9	11.4	7.7	16.4	8.2	2.9	3.4	1.5	3.6
身の回りの出来事をいろいろな立場から考えている	35.7	28.6	27.6	37.6	42.8	53.0	44.8	45.9	18.6	14.3	24.6	12.8	2.9	4.1	3.0	3.7
地域のことに進んで参加している	21.4	29.8	28.4	46.3	37.2	43.3	37.3	28.2	27.1	17.3	23.1	16.4	14.3	9.6	11.2	9.1
社会がどのようになると良いかいろいろと考えている	32.9	32.6	18.7	28.8	31.4	38.0	35.1	46.0	24.3	16.8	21.6	14.4	11.4	12.6	24.6	10.8

<アンケートより>

○授業に主体的に取り組んでいる、授業がよくわかるという結果に表れている。また、自分達の地域に関心を寄せている。

●自分も社会を形成する一人であるという意識付けをより強く行っていかなければならない。

3 研究の成果と課題 (○成果●課題)

○各学年でESDカレンダーを作成することで、それぞれの単元が他教科のどの単元と結びついているのかを視覚的に整理することができた。

●他学年の学習内容との繋がりを意識すること。

○ESDの視点で社会科の授業を組み立てることで、学習に広がり・深まりがみられた
<例> 4年生「くらしとごみ」(総合的な学習の時間『エコライフチャレンジ』を経て)

このままゴミが増え続けたらどうなるのだろうと**未来を予測**することで、みんなで課題解決に向けて動かなければならないこと(公平性)、自分たちにも環境を守るために動く義務があること(責任性)、ごみを分別することが資源の節約につながっていること(有限性)に気付くことができた。同時に、自分達だけで取組んでも効果はあまり期待できないのではないかと物事を批判的に考え、調べ学習に取り組むことで、この問題にはボランティア活動で参加している人がいることや、行政も取り組んでいること(連携性)に気づき、ほかの人たちに呼びかけるためにはどのような広め方が適切か、コミュニケーションの方法についても考える姿が見られた。また、ほかの問題に対しても自分にできることがあるかもしれないという思いは進んで参加する態度や他者と協力する態度の育成に繋がった。

●単元終末の、伝え広げる活動をより多く取り入れること、発信の場をより明確にすること。

○これまで研究してきた地域に根差した伝統文化の視点をESDとつなげて考え、地域の特性をESDの視点に組み込んだことで、児童は学習内容をより身近に感じ、興味・関心をもつことができた。

<例>「水田」における田植えから稲刈り、脱穀、餅つきまで、日本の主食の「米」を育てるには一年もの時間がかかることは総合的な学習の時間に学んでいるが、5年生社会科では育苗に2年かかること、稲を育てるにも昔から伝わる知恵を生かしながら多くの工夫がなされていることを学んだ。体験的な学習を経ているため、学習にも深まりが見られた。

○土曜学習で様々な伝統文化(茶道・華道・組紐・扇子づくり・繭取り等)に触れ、学習の時期と合わせて行うことで、子どもたちの興味・関心を引き出すことができた。

○地球上で解決しなければならない課題を自分事としてとらえることができた。

6年生「日本の歴史」(総合的な学習の時間『平和を祈る』と並行)

現代のわたしたちの暮らしが歴史を生きた先人の工夫や努力の延長線上にあるということを知ること、過去・現在・未来の時間の繋がりを意識することができ、自分のことだけでなく未来を生きる人のことも考えた開発が望まれることを体感した（有限性）。また、歴史上の人々がそうであったように、社会に目を向け、正しい情報を収集し、批判的に物事をとらえること（多様性）、その上で正当性を訴え、貫きつつも他者の意見に耳を傾けること（公平性）、さらには協同して折衷案を見出し、共に生きる大切さ（連携性）に気付くことができ、他者と協力する態度や多面的・総合的に考える力の育成に繋がった。

●あらゆる課題について「自分事」として捉えたり、「自分だったら」と考えたりすることには課題が残る。あらゆる課題を身近に感じさせる学習方法を見出していかなければならない。

○社会科における「課題把握、予想、調べ学習、交流、検証、まとめ」という流れが定着したことで、学習に対して疑問をもち、自分で解決しようとする意欲を引き出すことができた。また、学校行事と教科学習を関連付けていることも、社会科について興味・関心をもつことにつながっている。

●他教科での学習形態を確立し、児童が見通しをもって学習に向かい、さらにはその流れを家庭学習でも生かせるようにすること。

○言葉の学習の基礎を生かして自分の考えを明確にしたうえで伝え合うことで、様々な意見を聞き取り、自分の考えと合わせて考えなおすことができた。違う考えを受け入れようとする柔軟な態度を引き出すことができた。

<ESDカレンダー>

○教員がESDを意識することで、子どもたちにつけたい力が各単元においてより明確になり、それぞれの単元や教科学習をつなげて学校生活全体をとらえることとなった。学校教育活動とESDの大きな共通点は「ひとづくり」であるといえる。学びをそこで終わらせるのではなく、「生かす」力が重要となり、さらには地球規模で物事を考え、起動力へつなげていくことを、教科横断だけでなく、学校教育全体でESDをとらえることが大切だと教員が意識することができた。

○ESDを意識することで、教員も子どもたちから学ぶことができた。

4 今後の取組

・各教科（特に本校では国語科と社会科）や領域（特に本校では総合的な学習の時間）をより充実させるためにESDの視点で見直してきた。しかし、「教科の学びの中にESDがある」という意識をもっと指導者がもたなくてはならない。そのために、各教科・領域のねらいとは別に、ESDの視点で身に付けさせたい資質・能力をより明らかにした指導案を作成したいと考えている。

・今ある人材リストを活用し、さらに地域教材を発掘していくことで、指導者自身が地域に何があり、どんな人とつながっているのかを知ることができる。子どもたちの身近な教材・生活に密着した教材を用い、問題解決的な学習を進めることで、主体的に自分のこととして考えられる子を育てたいと考えている。

・ESDカレンダーを作成することで、それぞれの単元が他教科のどの単元と結びついているのかを意識して指導する事が出来た。しかし、資質・能力について等の関連が十分でないので、そのことも意識する必要がある。そのうえで、他学年のESDカレンダーも参考にして単元構想ができればと考えている。

・中学校との連携についてもESDの視点で身に付けさせたい資質・能力を軸にして考えていきたい。